

水に臭いがする

カルキ臭(塩素臭)がする



原因

水道水は衛生上、塩素消毒が義務付けられているため、残留する塩素によって塩素臭を感じる。配水地域や個人差によって感じ方に多少の差はあるが、衛生的に給水されていることを意味している。

対策

塩素臭は水道水が病原菌等の汚染から守られた安全な水である証拠で、この臭気が気になる場合は、煮沸後、冷やすことで解消される。また、家庭用浄水器でこの臭気を除去する性能を有する製品もある。

金気臭がする



原因

水道水に鉄、銅、亜鉛等の金属類が多く含まれている場合に発生する。特に配管中での滞留時間が長い地域では開栓時に溶出した金属が金気臭を発生させる。水源に地下水を使用している場合は、鉄細菌の存在で金気臭が発生する。

対策

開栓時の水をしばらく捨水するか、腐食の進んだ給水管では布設替えが必要である。また、鉄細菌が起因する場合は着臭障害が広範囲にわたるため、配水管、設備等の塩素消毒と洗浄が必要である。

シンナー臭、灯油臭がする



原因

塗料や接着剤が溶出し、水道水に着臭する場合や、塗装工事で使用したシンナーや灯油等が土壤に浸み込み、塩化ビニール管やポリエチレン管等の給水管を侵して、水道水に影響を与える。浅井戸の場合は土壤汚染がそのまま水源を汚染するケースもある。

対策

この汚染も深刻なケースが多く、管内洗浄、布設替え等により改善するが、開栓時に捨水しても、長期間着臭が落ちない場合がある。

かび臭がする



原因

停滞水域の湖沼や貯水池で、夏期に藍藻類や放線菌のある種が異常繁殖を起こし、かび臭障害を起こす。また、大雨による河川増水で河床の低泥が巻き上げられて、水にかび臭や土臭をつけることもある。

対策

一般的には活性炭による除臭処理が用いられる。かび臭は、腐敗菌や病原菌のような不衛生なものではなく、河川や湖ならどこにでもいる微生物が細胞内で産生した物質であり、安全性に問題はない。

油膜臭がする



原因

給水管の新設や布設替えの工事で使用する切削油に起因するもので、工事終了後、給水管に臭いが付着している場合があり、水道水の着臭原因となる。

対策

臭いが感じなくなるまで捨水して使用する。受水槽の汚染やクロスコネクションの可能性が疑われ、捨水により臭いがなくならない場合は、至急に現場調査が必要である。

腐敗臭、下水臭がする



原因

受水槽への汚水混入やクロスコネクションの可能性が疑われる。その他、河川や湖沼等で発生した大量の藻類が、死後分解して水源の原水に腐敗臭を着臭することがある。

対策

水道水に腐敗臭を感じる時は、不快であるばかりでなく、衛生的な安全性がおびやかされる恐れがあるので、直ちに飲用を停止し、原因を究明する必要がある。

消毒液臭がする



原因

フェノール樹脂製のやかん蓋のノブ等と塩素が反応して発生する。その他に、お茶を入れるとき鉄分の多い水(紫色になるほど多くない)を使用すると臭いが発生する。

対策

樹脂の部品を取り替える。飲料用水はよく放水してから使用する。